

福祉心理学の定義と研究領域

富 樫 ひとみ

1 はじめに

筆者が初めて福祉心理学という言葉聞いたのは十数年前である。しかし、福祉心理学という学問の必要性が認識され出したのは、もう十数年遡る。佐藤 (2011) によると、大学で福祉心理学科が設置されたのは1992年で、東北福祉大学においてであった。その後、2018年度から始まった心理職の国家資格「公認心理師」の養成課程における指定科目として福祉心理学が挙げられた。福祉心理学が認知され始めてから二十数年を経て、その重要性が認識され始めているのが現状である。

一方で、福祉心理学とはどのような学問か、と問われると、その答えは研究者によって異なるというのも現状である。

そこで、本稿は福祉心理学とはどのような学問なのか、定義及び研究領域・研究対象、研究方法を考察する。独立した学問であるためには、その学問独自の視点や性格を明確にする定義や独自の研究領域・対象を備えていなければならないからである。また、学問研究のための研究方法が確立していなければならないからである。

ところで、福祉心理学は対人援助のための実践的学問として認識されている。福祉心理学という言葉で構成する「福祉」という用語が、社会福祉事業で行われている対人援助^①を連想させるからであろう。実際、「福祉」すなわち「社会福祉」には、対人援助を行う方法が確立されている。福祉心理学を構成するもう一つの用語「心理学」においても、既に対人援助の実践的学問として臨床心理学があり、対人援助の方法が確立している。

今後、福祉心理学が学問として独自性をもつためには、これらとの差違も明確にしなければならない。そのため、本稿では、これらの差違も考察する。

2 心理学の研究領域

(1) 心理学の定義と研究領域、研究方法

心理学の起源は古代の哲学的思索の時代にまで遡ることができる。この哲学的思索は、科学的研究方法が発展するにつれて、自然科学や人文科学、社会科学へと分離し、独立した学問を誕生させた。人間の精神や心理の研究は、哲学の流れを汲む連合心理学へと発展し、意識や心の構造の研究が進んだ。一方、自然科学に分類される生理学の流れを汲む研究は、人間の知覚・感覚の働きや神経経路の研究、それらと意識の関係等の究明が進められていった。

心理学は、このような2つの異なる系譜が合流して誕生した学問である。そのため、研究対象は広範囲に及び多様である。しかし広範囲で多様といっても、人間の意識や心を離れて研究するものではない。したがって、心理学とは、心や行動の法則性を究明する学問

と定義することができる。

心理学が研究の領域・対象とするのは人間の意識や行動である。両者のうち、意識は外見に現れないため把握が難しいが、意識に関連してなされる行動は外見から把握できる。そのため、どのようなときにどのような行動をするのか、行動の法則性究明が重要視される。これらを研究する方法として、観察法や実験法、面接法、調査法、検査法等がある。

(2) 臨床心理学の定義と研究領域, 研究方法

臨床心理学は心理学の応用科学として誕生した、歴史的にはまだ日が浅い学問である。現在、臨床心理学の統一的な定義はないが、応用心理学の一分野で、問題行動等の法則性の究明や問題行動等解決のための援助を行う実践的学問だといえる。

研究対象は問題行動や社会的な不適応行動の解明とそれらを解決するための援助法で、研究方法は主に面接法や事例研究法である。調査法が用いられることもある。

3 社会福祉学の研究領域

(1) 社会福祉学の定義と研究領域

古来より社会福祉的な救済政策は行われてきたが、それが本格的な研究として行われ出したのは第二次世界大戦後である。その研究の当初、社会福祉学の独自の視点や性格、本質についての論争が繰り広げられた。社会福祉学は社会科学の応用科学であり実践的学問であることでは異論はないようだが、杉野(2011)によると、その本質は、社会政策を補完するものという「構造論」と個人と社会を調整する援助を目的として固有性を認める「機能論」とする論争がある。その状況は現在も変わらず、定義については現在においても一致を見ていない。一方で方法論の研究も進み、現在では、研究領域・対象の広がりを見ている。

そこで、本稿では、まず社会福祉学の研究領域・対象を概括する。

久田(2003)は、社会福祉学の研究領域・対象という言い方でなく社会福祉学研究の特徴という言い方で、①社会福祉発達史、②社会福祉領域の実態や課題の分析、③政策論と技術論、④経済学および社会学の応用、⑤生活保障システムの形成など、5つを挙げている。

古川(2003)は、研究の潮流として①政策論、②生存権保障論、③歴史論、④技術論、⑤固有論、⑥運動論、⑦経営論、⑧多元統合論をあげている。これらを研究領域に整理して、①政策論及び生存権保障論、歴史論、運動論を包含する社会科学論的社会福祉論、②技術論及び固有論を包含する技術論的社会福祉論、③経営論、④多元統合論の4つに大別している。

杉野(2011)は研究領域として、①社会福祉事業史、②制度・政策、③援助実践、④社会福祉運営論の4領域を挙げている。

社会福祉の歴史は概ね制度・政策の歴史だろう。しかし、制度・政策研究は多寡の違いはあっても根底に福祉社会的理念がある。歴史研究の目的は、研究者の視点が反映されるにせよ、過去の出来事と出来事をつなげて記述することである。したがって、筆者はそれらを別の領域と捉え、杉野の分類を踏襲する。

ただ、古川 (2001)^②が指摘するように、社会福祉学は多様な隣接学問の知見を活用している応用科学の学問である。例えば、コンピューターやAIの進歩には目を見張るものがあり、これらの技術活用による福祉機器開発などが進んでいる。この傾向は今後増大し、その他の理工系科学などとの協働も促進されるだろう。そうすると、研究領域や研究対象は一層広がっていくものと思われる。

(2) 社会福祉という概念の意味

社会福祉学の定義が定まらない要因の一つに、社会福祉という概念が意味するものの同意が取れていないことが挙げられる。寺田 (2005) の整理を参考にすると、その概念は狭く5段階の概念に大別できる。

最も狭義の第1段階は、生活上の困難を抱えている、いわゆる社会的弱者に対する施策等を意味する概念である。そのため、社会福祉の対象者は、経済的な生活困窮者や障がい者、高齢者、児童、ひとり親家庭などである。

第2段階では、第1段階の概念に社会保障制度や福祉関連施策を含む。そのため、社会保険制度や公衆衛生などを含み、対象者は国民一般である。

第3段階では、第2段階の概念に教育や雇用、住宅など社会政策を含む概念である。そのため、対象者は国民一般である。

第4段階では、実態的な施策・制度にとどまらず国民一人ひとりが幸福な状態の理想社会を目指すという理念的な概念である。この場合も対象者は国民一般となる。

第5段階では、制度・政策とは無関係に、社会全体の幸福や繁栄を意味する。寺田は、『社会福祉用語辞典』^③における社会福祉の意味を紹介している。

社会福祉は政策・制度であることから、国家の社会福祉観や政策に影響を受けざるを得ない。そこで、わが国の戦後からの社会福祉制度の流れを見ると、戦後から1980年代頃までは、その対象者を社会的弱者と呼ばれる人としていた。しかし、高齢化率の急伸に伴って高齢者は社会的少数者でなくなり、社会福祉理念の変革が迫られた。その変革された理念に基づいて打ち出されたのが社会構造改革の福祉分野である社会福祉基礎構造改革である。この社会福祉構造改革が着手され出した1990年代以降は、国民一般が社会福祉制度の対象者と捉えられるようになった。

第4段階における概念は理想的福祉社会の理念形だが、第2～3段階の実態的な制度・政策は理念形を目標に策定されていくものである。したがって、第2～3段階の概念には、その根底に第4段階の概念があると考えられる。

第5段階における概念は、言葉の意味としての概念であろう。実践的学問としての社会福祉学では、この段階の概念を含めるのは難しいと考える。

社会福祉学の研究方法には、実験研究法、観察法、社会調査 (サーベイ)、面接法、事例研究、検査法がある。社会調査は質問紙調査のことである。

4 方法

まず、データベース・サービスSiNiで「福祉心理学&定義」及び「福祉心理学&研究対象」をキーワードとして文献検索を行った。また、タイトルに「福祉心理学」という用語

が使われている図書及びタイトルに「福祉」と「心理学」又は「福祉」と「心理」の用語が含まれる図書を収集した。それらの図書のうち、福祉心理学を独立の学問としている図書を選定し、それぞれの図書について「定義・考え方」及び「研究領域・対象」、「研究方法」を概括した。

次に、この調査結果を踏まえて福祉心理学の定義及び研究対象、研究方法を考察した。最後に、対人援助において福祉心理学の近接領域である社会福祉学及び臨床心理学と福祉心理学のそれぞれの援助対象を比較した。

5 結果

データベース・サービスSiNiiにおいては、文献は見当たらなかった。図書では入手できたのが9冊で、これらのうち福祉心理学を独立した学問とした定義が記載されている図書又は心理学という位置づけであっても研究対象が明記されている図書を選定した。その結

表1 福祉心理学の定義と研究対象, 方法

図 書 名	定義・考え方	研究領域・対象	研究方法
安藤 治 (2003)『福祉心理学のこころみ—トランスパーソナル・アプローチからの展望』ミネルヴァ書房。	「福祉」および「福祉活動」に関する心理学的研究のすべて	①人類の幸せを求める心(福祉の心) ②福祉活動に携わる個人の「自己実現」	明記なし
今城周造 (2004)「福祉心理学の試論:『福祉の時代』に心理学を学ぶ意味」今城周造編『福祉の時代の心理学』ぎょうせい, pp. 1-8。	諸個人の福祉を増進させる心理学	①人間理解 ②対人援助 ③well-being	観察法, 面接法, 質問紙法, 検査法, 実験装置による反応測定など
井上智義 (2004)『ライブラリ実践のための心理学=9 福祉の心理学—人間としての幸せの実現—』サイエンス社。	個々人レベルの具体的な福祉問題に活用する心理学	①個々人レベル福祉問題の理解 ②個々人レベルの福祉問題への支援策	明記なし
宮原和子・宮原英種 (2009)『福祉心理学を愉しむ(第3版)』ナカニシヤ出版。	心と適応を考えていく学問	①人間の幸せの心の問題 ②環境に適した生き方としての適応の問題	明記なし
佐藤泰正 (2011)「福祉心理学の発展と課題」佐藤泰正・桐原宏行・中山哲志編著『福祉心理学総説』田研出版, pp. 7-11。	福祉に関する心理学的研究	①福祉的対応を必要とする人たちの心理的問題 ②福祉活動に携わる人の心理的問題 ③家族の心理的問題 ④福祉的対応を必要とする人たち等の人間関係に関する心理的問題 ⑤援助活動の内容と方法 ⑥物的条件や物的環境の心理的影響 ⑦福祉評価に関する問題 ⑧一般社会の福祉に関する意識, 制度改革等の心理的効果 ⑨福祉に貢献した人たちの人間形成に関する研究	伝統的心理学実験法, 質的研究法(事例研究法, シングルケース研究法),
大迫秀樹 (2018)「福祉対象者への心理的支援の必要性とあり方」野島一彦・繁榊算男監修, 中島健一編『公認心理師の基礎と実践⑩[第17巻]福祉心理学』遠見書房, pp. 11-22。	福祉に関する問題を心理学的に研究する科学, あるいは福祉を必要とする人々に対して心理学的な技法を使って介入, 支援を行っていく学問	①すべての人がしあわせな心で生活することの心理学的な解明や援助 ②福祉ニーズのある人たちへの支援	明記なし

果、6冊が該当した。

この6冊について、「定義・考え方」及び「研究領域・対象」、「研究方法」を整理したものが表1である。

6 福祉心理学の定義と研究対象

(1) 福祉心理学の定義

調査結果において、福祉心理学の学問上の位置付けについての見解を整理すると、応用心理学の一つという見解が多かった。しかし、宮原ら(2016)は、福祉心理学を全く新しい独自の学問ととらえ、「新しい価値の創造」を提唱している。

確かに、福祉心理学を新しい学問に育てていくことは可能であろうが、それには独自の学問的性格や研究対象、研究方法の開発が不可欠である。現時点では、福祉的視点や心理学的視点と異なった福祉心理学固有の視点や性格は提唱されていないので、筆者においても福祉心理学は、応用心理学の一つと考える。

福祉心理学の定義については、概ね2つに分類することができる。一つは、福祉という用語を社会福祉という意味にとらえて、社会福祉政策や制度における直接的対人援助及び間接的対人援助に関する心理学的研究とする立場である。この立場に立つのが、井上(2004)や佐藤(2011)である。もう一つは、福祉という用語の意味が「幸せ」を意味することから、人類の幸福に関する心理学的研究とする立場である。この立場に立つのが、安藤(2008)や今城(2014)、宮原ら(2014)である。大迫(2018)は、一方の立場に立つのではなく、このように2つの立場があることを紹介するにとどめている。

このように、定義に2つの立場があるのは、学問の歴史が浅いことに加え、社会福祉という概念の多義性によることが大きい。しかし、前述した第4段階の概念、一人ひとりが幸福状態にある理想的社会という理念であっても「社会」という枠組みから外れるものではない。福祉という用語は「幸せ」を意味するものだが、決して個人の心の内のみある幸せを意味しない。「福祉心理学」に「社会」の言葉はないが、社会福祉を意味する福祉なのである。そこが「幸福の心理学」^④との相違である。

したがって、筆者は、福祉心理学を心理学の系譜に社会福祉学の潮流が合流した社会福祉問題に関する心理学研究を行う学問であると考ええる。

(2) 研究対象と研究方法

福祉心理学は何を研究する応用心理学かという点、調査結果では、大別すると2つの立場があった。これは福祉心理学の定義の相違による帰結だろう。一つは、社会福祉政策や制度の対象の範囲内にある人や心理的効果である。これには、福祉ニーズを抱えた人などとその援助方法と限定的に捉える立場と福祉ニーズを抱えた人などに国民一般を含める立場がある。福祉ニーズを抱えた人と限定する立場は、社会福祉の概念を前述の第1、2段階と捉えていることに由来すると思われる。国民一般を含める立場は、社会福祉の概念を第3段階で捉えていることに由来すると思われる。

もう一つの立場は、研究対象を人類すべての人の幸福の心や援助方法とする立場である。これは、「福祉」という用語の意味に由来する研究対象である。この立場は、第4段

階もしくは第5段階の概念で社会福祉を捉えていると思われる。ただ、第4段階の概念で捉えている立場だとしても、社会制度の中の個人という視点が十分でないように思われる。

前述したように「福祉」という用語は、「社会福祉」を意味するものであるから、単なる個人の幸せな心の状態や幸せになる援助を指しているのではない。個別的な幸せではなく社会制度の中に存在する個人の総体的で抽象的な幸福な社会の状態を指しているのが第4段階の「社会福祉」である。したがってその研究の対象となるのは、単なる個人の幸せの状態における心の研究や幸せに至る援助方法ではない。筆者は社会福祉学における「社会福祉」の概念を第4段階の意味まで含めたいと考えるので、その見解に立てば社会制度の枠内にある幸福に関する心理状態等の解明や援助方法が研究対象となる。

研究方法の調査結果は、心理学的アプローチが今城と佐藤の2件で、他は明記されていなかった。福祉心理学を応用心理学の1つと考えるならば、他の文献においても研究方法を心理学的アプローチとしていると推察できる。しかし、社会福祉研究で行われる社会福祉学的アプローチには心理学的アプローチとは異なる調査法を必要とする場合もある。例えば、心理学的アプローチで用いられる質問紙法と社会福祉学的アプローチで用いられる質問紙法は、その質問内容が異なる。心理学的アプローチでは心理的内容を質問するが社会福祉学的アプローチでは意識調査の他に社会的な実態調査も行う。社会制度の枠内の個々の心理状態調査や援助方法の調査では、実態と個々の心理状態を相対的に研究することも必要だろう。

したがって、研究方法是心理学的アプローチに限定せず、社会福祉学的アプローチも活用する方が良いと考える。

7 隣接領域における福祉心理学的援助の位置づけ

福祉心理学は社会福祉領域の応用心理学で対人援助方法を研究対象にしていることから、社会福祉学と非常に近い関係にある。また、応用心理学として対人援助方法を研究することから、臨床心理学とも非常に近い関係にある。さらに、これらは共に実践的学問であることから、研究成果を活用した対人援助を行っている。

そこで、これら3者は何がどう違うのか、環境の活用・整備と心理的援助を軸にそれぞれの援助対象の相違を考察する。

臨床心理学の援助法は、前述した通り心理療法である。問題行動のある者や不適応状態にある者などに、心理上の働きかけを行って問題行動を消滅させたり不適応状態を解消したりする。援助のための働きかけは、主に社会一般から逸脱した問題行動と認められる行動をとる個人に対して行われる。たとえ環境への働きかけがあるとしても、周囲の人などのミクロレベルに限られる。

社会福祉学における援助方法はソーシャルワークと呼ばれる。相談援助や社会福祉援助技術と呼ばれることもある。社会福祉学の研究領域は、①社会福祉事業史、②制度・政策、③援助実践、④社会福祉運営論の4領域で、その中の1つに援助実践、すなわちソーシャルワークがある。このソーシャルワークでは、被援助者に対し、生活問題解決に向けて、自己決定支援や自己実現支援などの心理的援助を行うことも多い。また生活課題解決に向けて、制度・政策や物的・人的な環境の活用や改善を行う。これは、生活問題は生活問題

を抱える個人にだけに原因があるのではなく、環境にも原因があるとする考え方によるものである。

したがって、援助のための働きかけは、生活課題を抱える個人と環境に対して行われる。環境に対して行われる場合、研究領域・対象に社会福祉運営論及び制度・政策があることから、間接的な援助となる施設運営や制度・政策に対しても働きかけを行う。

福祉心理学における援助方法は学問自体の歴史が浅く実践方法の確立がなされていない。しかし、現在福祉施設において心理療法的アプローチで援助を行う事例が、多数報告されている。また、臨床心理学における心理療法は相談室という保護された空間で、一人の心理療法士によって行われるが、福祉心理学的援助の方法として、被援助者の生活現場に向いて被援助者の行動を把握したり心理的援助したりする方法がある。さらには、他の専門職者と連携して援助するというソーシャルワークで培われたチームアプローチや環境への働きかけによる援助方法も考えられる。社会福祉学的アプローチのように制度・政策への働きかけは含まないが、施設や地域といったメゾレベルの環境への働きかけ（間接的援助）を含んだ個人への働きかけが援助の方法として考えられる。

これらの援助の領域について、援助対象を「環境の活用・整備」と「心理的援助」の2つの軸で表したのが、図1である。

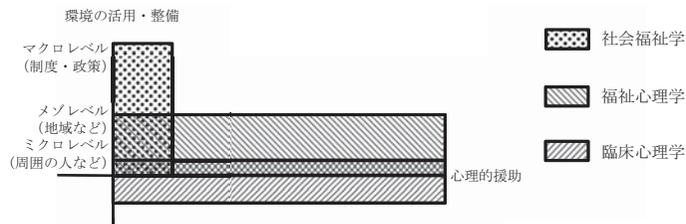


図1 福祉心理学及び臨床心理学、社会福祉学の援助領域

- 注1 縦軸は「環境の活用・整備」の程度、横軸は「心理的援助」の程度を表している。
 2 環境の活用・整備には、制度・政策及びシステム、物的・人的環境がある。
 3 心理的援助では、精神医療は除く。

8 おわりに

現在は、福祉心理学の重要性が認識され出して間がなく、福祉心理学の定義や研究領域・対象の議論が始まったばかりである。また研究方法についても独自性を備えた方法を確立していかなければならない時期でもある。まさに学問生成の時期である。今後、一層の議論を重ねていきたいと思う。

一方で、福祉心理学は実践的学問であるから、援助方法についても独自性を備えていかなければならない。福祉施設などの福祉の現場で、福祉心理学的援助という認識を強くもって対人援助を行っていくことで、福祉心理学的事例を蓄積することができるのではないかと思う。加えて、これまでに福祉現場において蓄積された対人援助の実践例を福祉心理学的援助という視点で、整理していくことも必要だろう。

注

- ① 近年の社会福祉実践では、援助者主体の「援助」ではなく利用者主体の「支援」という言葉を使うようになってきている。
- ② 滝口 (2003) が古川 (2001) の見解を紹介している。
- ③ 寺田 (2005) は、厚生省 (現厚生労働省) 社会・援護局・児童家庭局監修『社会福祉用語辞典』などを紹介している。
- ④ 幸福の心理学では、「人間をより幸福にする…目的」のために「肯定的・正の幸福感の原因と説明」を活用する心理学であるとしている (マイケル・アーガイル (1994) 『幸福の心理学』誠信書房 (石田梅男訳)。
- ⑤ 社会福祉学では、活用される環境を社会資源という。

文献

- 青木智子編著 (2014) 『医療と福祉のための心理学 [改訂版] 一人対人援助とチームアプローチ』北樹出版。
- 安藤 治 (2003) 『福祉心理学のこころみ—トランスパーソナル・アプローチからの展望』ミネルヴァ書房。
- 井上智義 (2004) 『福祉の心理学—人間としての幸せの実現 (ライブラリ実践のための心理学)』サイエンス社。
- 今城周造 (2004) 「福祉心理学試論：『福祉の時代』に心理学を学ぶ意味」今城周造編『福祉の時代の心理学』pp. 1-8, ぎょうせい。
- 太田信夫監修, 小畑文也編 (2017) 『福祉心理学 (シリーズ心理学と仕事)』北大路書房。
- 大迫秀樹 (2018) 「福祉対象者への心理的支援の必要性とあり方」野島一彦・繁舩算男監修, 中島健一編『公認心理師の基礎と実践⑩ [第17巻] 福祉心理学』遠見書房, pp. 11-22。
- 尾形和男 (2003) 『これからの福祉心理学』北大路書房。
- 岡堂哲雄編 (1996) 『新版 心理臨床入門』新曜社。
- 神谷育司編 (2001) 『心理学を学ぶ 改訂版』文教資料協会。
- 倉光 修 (1995) 『現代心理学入門5 臨床心理学』岩波書店。
- 佐藤泰正 (2011) 「福祉心理学の発展と課題」佐藤泰正・桐原宏行・中山哲志編著『福祉心理学総説』田研出版, pp. 7-11。
- 坂野雄二・菅野 純・佐藤正二他『臨床心理学 (ベーシック現代心理学8)』有斐閣。
- 杉野昭博 (2011) 「社会福祉学とは何か」平岡公一・杉野昭博・所 道彦他『社会福祉学』有斐閣, pp. 1-18。
- Michael Argyle (1987) "THE PSYCHOLOGY OF HAPPINESS" London: Methuen. (マイケル・アーガイル, 石田梅男訳 (1994) 『幸福の心理学』誠信書房。
- 滝口 真 (2003) 「社会福祉学における研究とは何か」久田則夫編『社会福祉の研究入門 計画立案から論文執筆まで』中央法規出版, pp. 1-16。
- 中央法規出版編集部編 (2001) 『社会福祉用語辞典』中央法規出版。
- 寺田貴美代 (2005) 「『広義の社会福祉』に関する概念整理」清和大学短期大学部33, pp. 33-45。
- 十島雍蔵 (2016) 『臨床心理学概説』鹿児島学術文化出版。
- 野島一彦編著 (1995) 『臨床心理学への招待』ミネルヴァ書房。
- 平山 尚・武田 丈・呉 裁喜他 (2003) 『MINERVA 社会福祉専門職セミナー ソーシャルワーカーのための社会調査法』ミネルヴァ書房。
- 藤永 保・三宅和夫・山下栄一他編『臨床心理学 テキストブック心理学 (7)』有斐閣。
- 古川孝順 (2001) 「社会福祉研究の曲がり角」鉄道弘済会社会福祉部編『社会福祉研究』82, PP. 82-91。
- 古川孝順 (2003) 「社会福祉の概念と枠組み」福祉士養成講座編集委員会編『新版社会福祉士養成講座 社会福祉原論』中央法規, pp. 2-17。
- 宮原和子・宮原英種 (2009) 『福祉心理学を愉しむ』ナカニシヤ出版。
- 山口 創 (2001) 『よくわかる臨床心理学』

Definition and research area of welfare psychology

Hitomi Togashi

This paper considers the definition of welfare psychology, research areas and research subjects.

Since welfare psychology is a discipline just beginning to be recognized academically importance, Unified definition etc. are not fixed. Therefore, this paper examines the literature, and discusses the definition, research areas, objectives, etc.

As a result of my consideration, I defined welfare psychology as a psychological study on social welfare issues that the genealogy of social welfare studies merged into psychology genealogy. And, I came to the conclusion that the elucidation of the psychological state etc. on happiness and the method of support within the framework of the research social system are areas and subjects of research.

Finally, based on these conclusions, I considered the differences between welfare psychology and clinical psychology and social welfare studies of neighboring science.